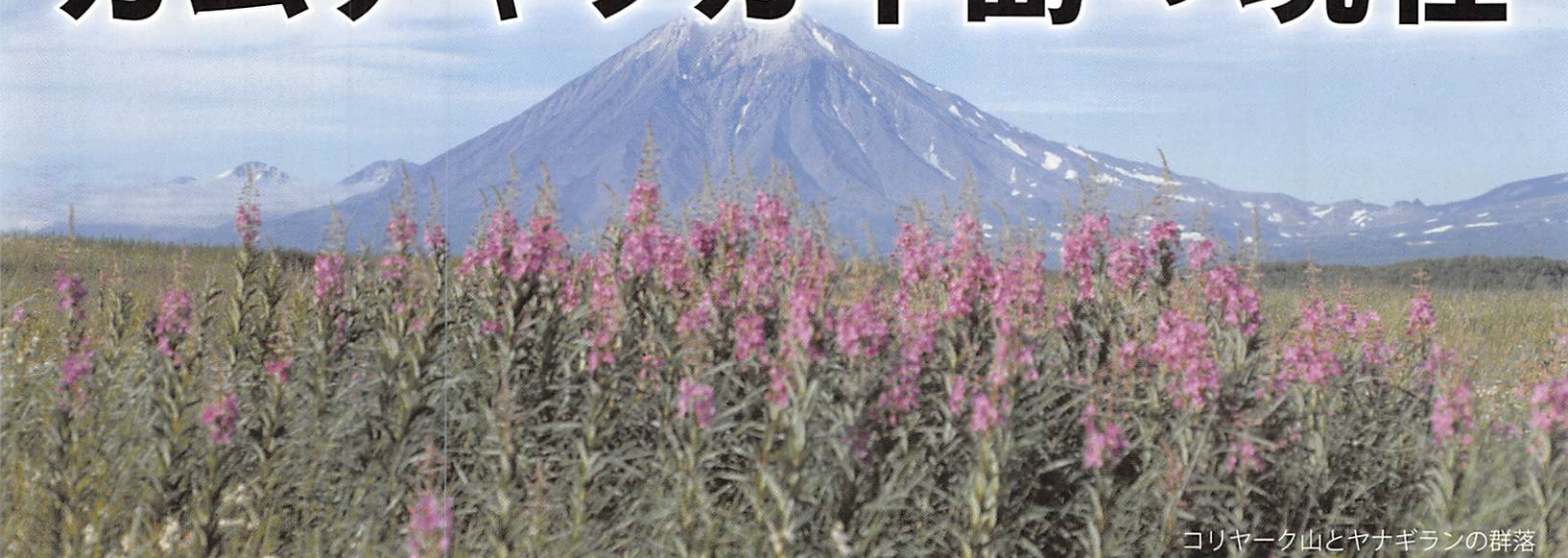


北海道立北方民族博物館 平成 25 年度企画展

観覧無料

# 映像にみる カムチャツカ半島の現在



コリヤーク山とヤナギランの群落



カムチャツカ川・クリュチ村の先住民団体のサケ漁



先住民たちが多く住むオссора村のアパート

## Modern Images of Culture and People of Kamchatka

2014. 2. 1 (土) ▶ 4. 6 (日)

主催 北海道立北方民族博物館  
協力 大島 稔 氏

開館時間 9:30 - 16:30

会場 北方民族博物館特別展示室

会期中の休館日 3/3, 10, 17, 24, 31

 **北海道立北方民族博物館**  
Hokkaido Museum of Northern Peoples

指定管理者：一般財団法人北方文化振興協会

### <関連事業>

講座 カムチャツカ先住民の狩猟と漁労  
2月1日(土) 13:30-15:00 当館講堂  
講師 渡部 裕 (当館学芸員)

講座 カムチャツカ先住民の歌と踊り・儀礼  
2月22日(土) 13:30-15:30 当館講堂  
講師 大島 稔氏 (小樽商科大学教授)  
甲地利恵氏 (北海道立アイヌ民族文化研究センター研究課長)

〒093-0042 網走市字潮見 309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)

◆網走バス観光施設めぐり線・北方民族博物館前 \*4月以降は運行日をご確認ください

Tel. 0152-45-3888 / Fax. 0152-45-3889 / E-mail. tonakai@hoppohm.org / <http://hoppohm.org>

# 映像にみる カムチャツカ半島の現在

カムチャツカ半島には2つの脊梁山脈が連なり、それらには標高4700mを超えるクリチェフスカヤ山など活発な活動を行う多くの火山がみられます。こうした山岳地形を背景に多くの河川水系が形成され、それらの河川には多種・多量のサケ類が遡上しています。南部には森林が生育しますが、北部はツンドラ帯におおわれています。カムチャツカ半島の南端は千島列島に近接していて、先史時代からカムチャツカと日本列島北部との文化的な交流が行われてきました。

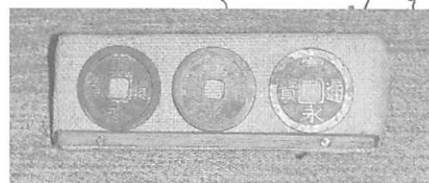
当博物館では1997年よりカムチャツカの先住民文化に関する現地調査を実施してきました。本企画展ではこれら調査の成果をビデオや写真を中心にカムチャツカの人と自然、現代の生活を紹介します。



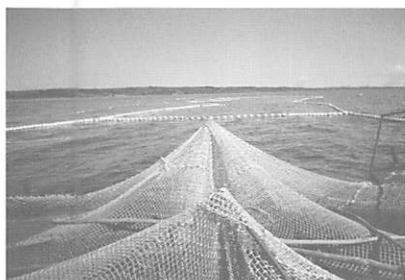
## カムチャツカ半島の歴史と先住民

カムチャツカ半島北部にはトナカイ遊牧グループと狩猟・漁労グループに大別されるコリヤークが居住し、南部には狩猟・漁労民であるイテリメンが居住していました。17世紀末、コサック隊がカムチャツカに派遣され、先住民への毛皮税徴収が始められたことから先住民が反発し、各地で先住民とコサック隊との軍事衝突がおおよそ30年間続きました。

その後、ロシアの支配が確立し、カムチャツカの先住民と毛皮商人や宣教師などとの接触が始まり、カムチャツカはクロテンやアカギツネをはじめとする毛皮の生産地としての歴史をたどってきました。さらに、ロシア革命後、社会主義経済がカムチャツカにも浸透すると、先住民はトナカイ遊牧や畑作、畜産などを行う集団農場の構成員となる集団化政策、そしてソ連体制崩壊を経験してきました。



カムチャツカ南部で発掘された寛永通宝



## 北洋漁業とカムチャツカ

19世紀後半、サケの缶詰生産技術が確立されると、カムチャツカではサケが重要な経済資源となり、日本人もカムチャツカに注目するようになりました。日露戦争終結の講和条約にもとづき、ロシア極東沿岸の漁業権が日本人に開放され、季節的に日本人漁業者がカムチャツカに來航し、先住民と接触をもつようになりました。

北洋漁業が伝えたサケ定置網／カラガ湾

## おおとり 鵬丸のカムチャツカ周航

鵬丸(164トン・木造)は1921(大正10)年、ベーリング海、カムチャツカ東海岸の水産調査を目的に農商務省水産局より派遣されました。6月11日東京から出港し、ペトロパブロフスク、コマンドル諸島を経て、東海岸の各地に寄港、アナディール湾からベーリング海峡を経て、北極海側のウエレン、アラスカのプリンス・オブ・ウェールズ付近まで航海の後、再びチュコトカ沿岸からカムチャツカ東海岸沿岸に寄港し、日本人漁場を訪ねるとともに、一部でタラバガニ漁の試験操業や陸上にて石炭等の鉱物資源の状況を視察しました。その後、それらの状況を撮影した写真を貼付したアルバムが作成されました。



鵬丸の乗員が撮影したコリヤークと皮船  
／1921年8月アナスタシヤ湾



## 現代の生活

カムチャツカの先住民の多くは、他の地域と同様ソ連時代に、集団農場や国営農場でトナカイ遊牧や畑作、畜産など農業分野で働いてきました。しかし、ソ連体制崩壊とともにそれらの職を失って、生活が困窮する時代が過ぎました。それまで支払うことのなかった家賃や光熱水費、電話料金の徴収が行われるようになり、1998年にはハイパーインフレにみまわれるなど、大きな変革を体験してきました。今日ではロシア経済の好転でカムチャツカの人びとの生活も安定を取り戻しているようです。

サスノフカの民族村の日本人観光客

- <期間中の行事> ☆ 2月9日(日)は開館記念感謝DAY / 2月9日・10日は常設展示無料
- 2月9日(日) 10:00-12:00 はくぶつかんクラブ「雪あそび」講師 山田祥子(当館学芸員)
  - 2月28日(金)、3月1日(土) 13:30-15:00 講習会「とんぼ玉づくり」講師 笹倉いる美(当館学芸主幹)
  - 3月8日(土) 10:00-13:00 アイヌ文化講習会「シカ肉料理」講師 床みどり氏(阿寒湖畔ポロンノ店主)ほか
  - 3月15日(土) 13:30-15:00 講座「暮らしのなかの北方言語」講師 山田祥子(当館学芸員)
  - 3月16日(日) 10:00-12:00 講習会「フェルトのアザラシづくり」講師 笹倉いる美(当館学芸主幹)

 **北海道立北方民族博物館**  
Hokkaido Museum of Northern Peoples

指定管理者：一般財団法人北方文化振興協会

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
(天都山・道立オホーツク公園内)

Tel. 0152-45-3888 / Fax. 0152-45-3889

E-mail. tonakai@hoppohm.org / http://hoppohm.org